

# 住民個別の避難計画

## 常総 根新田町内会が検討会

昨年9月に鬼怒川決壊などの水害に襲われた常総市で、住民一人一人が洪水避難のタイミングについて検討する取り組みが始まった。モデル地区となった根新田町内会の第1回検討会が20日、同市中妻町の根新田会館で行われ、国土交通省や市の担当者が居住地域の水害リスクなどについて住民に説明した。検討会はおと2回行われ、住民は家族構成などに応じた個別の防災行動計画（マイ・タイムライン）を来年2月までに作り上げる。

タイムラインは災害発生から逆算して自治体や住民の取るべき行動を時系列でまとめた表。昨年の水害を

受け、県内の鬼怒川流域自治体では既に作成を終えているが、国交省では目標である「逃げ遅れゼロ」を目指すため、個人や家族単位での作成にも着手。モデル地区には常総市若宮戸の町内会も選ばれた。

状況などを説明。参加者は鬼怒川の浸水想定区域図を参考にしながら、自宅の立つ土地の水害リスクを改めて把握した。

昨年の水害時にどうやって逃げたかなども配られた専用のノートに記入。災害に対する備えの重要性を再認識した。

国交省下館河川事務所の里村真吾所長は「家族構成や避難場所までの距離などは各家庭で異なる。マイ・タイムラインの作成を通じて、全員が避難のプロになってほしい」と期待。同町内会の鈴木孝八郎区長（74）は「タイムラインを作っておけば早め早めに行動でき、家財も安全な場所に避難させられる。今回の検討会に合わせ、町内会版もぜひ作りたい」と抱負を述べた。

根新田町内会には現在約100世帯400人が加入している。昨年の水害では9割の世帯で床上浸水の被害に見舞われたが、住民への情報伝達用として2年前に導入した一斉ショートメールサービスが威力を発揮、住民避難などに役立った。

この日の検討会には73世帯86人が出席し、国交省や市の担当者らが過去の水害



専用のノートに記入しながら水害リスクについて学ぶ根新田町内会の人たち。常総市中妻町

（今橋憲正）